家庭教師ヒットマンＲＥＢＯＲＮ！　秘密の少女

あんみつ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
家庭教師ヒットマンＲＥＢＯＲＮ！　秘密の少女

【Ｎコード】
Ｎ４５８２Ｙ

【作者名】
あんみつ

【あらすじ】
ある日、間違えて神に殺されてしまって、死んでしまった、愛原（あいはら）未来（みらい）。
神に、「間違って殺してしまって、悪かった。その代わりに、ＲＥＢＯＲＮ！の世界に転校させてやる。」
と言われ。
未来は、自分が大好きなＲＥＢＯＲＮ！の世界にいくことになった。
しかし・・・彼女には、絶対に誰にも言えない・・・秘密があった。
その秘密とは・・・・

この話は、シモン編が終わってからのオリジナル話。

オリキャラ設定

名前　愛原　未来

フリガナ　アイハラ　ミライ

身長　１５３ｃｍ

体重　４０ｋｇ

髪型　お団子に、星がついているかんざしが刺さっている。

性格　めんどい事が嫌い、誰にでも偽の自分を出している。

好きなタイプ　信用してる人でも、偽の自分。本心は、ださない。

でもする人など・・・　強い人、かっこいい人、仲間のためなら何

嫌いなタイプ　弱い人、うるさい人、心配する人、ちょっかいしてくる人など・・・

武器　何でも使えるが、おもに、剣（赤色、黒色）

能力　心が読める、未来が見える、相手をのっとることができる。

オリキャラ設定（後書き）

初めての小説です。
よんでくれてありがとう♪
これからもよろしく。

誰かに会う！！（前書き）

タイトル関係ないかも・・・

誰かに会う！！

ある日の帰り道・・・・・

未来「はぁ～今日も詰まんなかったなぁ～。
　何でいつも同じ事しないといけないんだろう。」

一人で、ぶつぶつ言いながら、帰っていると・・・

？「そこのお前。
　今日こそ殺してやる。」

何を言ってるのかわからない人がこちらに向かって走ってくる。

その人の手には、なにかギラギラしているものを持っている。

次の瞬間、体に違和感が感じる。

まさか・・・と思い見てみると。

その人が持っていた・・・ギラギラとしたものが刺さってる。

それは、包丁だった。

未来は、そこに倒れた。

未来「うぅ・・・・なに・・・これ・・・。
　あ・・・れ・・・もしかして・・・死ぬパターン・・・か・・
な・・？」

未来は、苦しい顔で言った。

その人は、びっくりした顔で、

？「なっ・・・お前は、違う人・・・・・

悪かったな。

人違いだった・・・まぁ～お前は、すぐ死ぬからな、安心しな。」

えっ・・・人違い？？

うそ・・・こんな死に方やだよ・・・・

もう、その言葉は、声に出せなかった。

だんだん意識が・・・飛んでいく・・・・

？「じゃあな。

未来。」

未来は、意識を失った。

誰かに会う！！（後書き）

今回は、長かったですね。
また次回

神に合う！！（前書き）

今日は、まだまだ書くかも・・・・

神に合う！！

未来「うぅ～～ここは??
　だって私・・・死んだはずじゃないの??」

未来が、悩んでいると・・・・・

?「おっ来た来た。
　待ってましたよ～今度からは、もっと早く起きてね♪」

誰かが、話しかけてきた。

見てみると・・・・美少年！！！

かっこいい・・・イケメンだ！！

えっ、でも何でここいるんだろ?

未来「あの・・・何でここにいるんですか??
　イケm・・・お兄さん。」

危ない、危うくイケメンっていうところだった。

ふぅ～良かった良かった。

未来が安心してると・・・

ロック「そうかぁ～イケメンね～～いいね！！
　あっ、初めまして。

俺の、名前は、ロック。職業は、神様ね！！」

未来「よろしくお願いします。
えっ～～と、私は、愛原　未来です。」

未来は、やっぱり気づいてたんだ・・・えっ・・・神様？？？

この人・・・神様～～～～～～～～！！！

ロック「名前は、もう知ってたよ！！
だって俺神様だし！！
さっき未来会ったし。」

ロックが、俺は、すごいぞと言っているように聞こえる。

いやちがう・・・・そういってる。

未来「えっ・・・会ったて、どこ？？
ここはどこ？？」

未来は、もう敬語ではない。

ロック「えっ・・・だって君殺したの俺だし☆
いや～～あの時はごめん～～。
未来に似てる人だったし。まぁ～ドンマイ未来♪」

神に合う！！（後書き）

後に、続きます。

神を憎む！！（前書き）

前の続きです。

神を憎む！！

未来「ドンマイだって・・・・・ふざけんなよ！！！
人を、まちがった！！！！！それぐらいで、勝手に、殺すな！！

今度は、私が、お前を殺す！！！」

私は、人生でこれだけ怒ったのは、これが初めてだ！！

ロックは、私の前で、土下座をして、

ロック「ごめんなさい。申しません・・・絶対に！！
あと、殺気を消してください。
貴方の好きな・・・ＲＥＢＯＲＮ！の世界に連れて行くんで！！
能力もつけときます・・・なんでもしますんで、許してください！！！！」

ロックが、泣いて謝って来たので、未来は、殺気を消して・・・笑って。

未来「へぇ～～なんでも・・・いいよ。
その代わりに、私が、想像した者をだしてね（ニコッ）」

偽の笑顔で、言った。

ロックは、顔が青い。

ロック「わかりました。今想像してください。

いきます。楽しんできてください。

あっちに行ったら電話があるんで、それでかけてください。

」

未来は、体が浮く感じになって・・・落ちた。

神を憎む！！（後書き）

やっとＲＥＢＯＲＮ！の世界です！！
お楽しみに。

REBORN！の世界！！

未来「いった～～～。あっついたのか。ここかぁ～
　思いどうりにホントになるんだ。」

感心しながら・・・携帯を探す。

ここは、並中から、徒歩５分の所だ。

一戸建てで、４階まであり・・・１階ずつとても広い。

未来は、携帯をとり、ロックにかけた。

未来「プルルル・・・プルルル・・・ハイ」

もちろんロックが出た。

未来「あっ・・ロック。あのさぁ～ワンコールで出てね。
　守らないと・・・わかるよね？？」

未来は、笑いながら言った。

ロック「わかりました。あぁ～タンスに服があります。
　武器もありますんで・・・・。
　いってらっしゃい。」

未来「わかった。バイバイ～～。」

これは便利！！

早くいこ。

REBORN！の世界！！（後書き）

次回みんなに会います！！

ボンゴレファミリーに会う！！

ここかぁ～変わらないな。

あっそうだ！！　雲雀どこだ～っていない。

あぁ～あ・・・・まっいいや。

職員室行かなくていいや。怒られたら・・・ドンマイ☆

先生「ここで、転入生の紹介だ！！さぁ～入れ。」

私は、しなやかに入った。

未来「初めまして。愛原　未来です。よろしくお願いします！！。」

未来は、偽笑顔で言った。

男子達は「かわいい～」と言っており・・・・

女子は「かっこいい」と言っている。

未来は、内心あきれている。めんどくさい。

私は、ある人を探していた。

沢田綱吉だ。

見つけた。しかも目合っちゃた。

ツナ（えっ・・今俺を見た??そんことないかぁ～。）

獄寺「あのやろう・・１０代目を見て!!１０代目!!敵かもしれません!!。」

ツナ「獄寺君落ち着いて・・敵じゃないよ・・たぶん。」

なんか言ってるな。私のことか!!

先生「えっ～～と愛原は・・・沢田の隣だ!!」

未来「わかりました。ありがとうございます。」

やった～～ツナの隣だ!!

ボンゴレファミリーに会う！！（後書き）

いい所ですが・・次回です。

ターゲットになる！！

未来は、ツナの隣に座った。

ツナの隣は、山本。　間を挟んで隣が、獄寺だ。

ツナ「よろしくね。愛原さん。俺沢田綱吉。」

未来「あっ・・うん・・・よろしくね。
　わからないこと・・あるから・・・よろしく。」

未来は、まだ信用できていないので・・途切れ途切れになってします。

獄寺「おい！！おまえ・・１０代目になんて事を言う！！謝れ！！」

獄寺が、怒るのでめんどくなってしまった。

こっちが、せっかく答えたのに・・・

未来「ごめ・・ん・・・ツナ君・・・こんな私で・・・・・
　”ボンゴレ１０代目”に勝手に話しかけて・・・」

私は、はっきりわかるように言った。

ツナ（なんで愛原さん・・・ボンゴレのこと知ってるの！！）

あたりまえじゃん！！と心の中で言う。

獄寺「おい！！あとで屋上に来い！！」

赤ちゃんに会う！！

やっと授業が終わった。

未来は、さっさと屋上へ行こうとすると、

男子Ａ「愛原さんって彼氏いる??好きなタイプは??」

女子Ａ「愛原さんかっこいいよね!!どこ出身??」

未来「あの・・・・困ります・・・用事あるんで・・・ごめんね（ニコッ）」

未来は、人をよけながら出て行った。

未来が、出て行ってもまだクラスは、うるさい。

未来は、並中のだいたいの場所は、知ってるので迷わない。

屋上についた。

かなり急いできたので、息が上がっている。

屋上には、沢田綱吉、獄寺隼人、山本武、それに・・赤ちゃんのリボーン。

未来「ハァ・・ハァ・・ごめん・・待った?」

まるで、デートの待ち合わせの言葉見たく言った。

ツナ「愛原さｎ「未来でいい。」・・未来ちゃん待ってないよ。」

獄寺「お前！！！また１０代目に向かって！！その態度直せよ！！」

また・・獄寺が騒いでるよ。あぁ～うるせ～

山本「まぁまぁ、落ち着けって獄寺。」

獄寺「うっせぇ！！野球バカお前は、黙ってろ！！」

いつまで続くんだろうって思っていた。

沢田を見ると、困っている。

本当に、ボスなんだろうか？思ってしまう。

リボーン「お前ら静かにしろ。俺達は、こいつに話があるんじゃないのか？」

リボーンが、言うとみんなは、黙った。

未来「かっわいい～赤ちゃんだ！！！この子ツナの弟？？」

未来は、あえてリボーンの事をバカにした。

リボーン「俺は、赤ちゃんじゃね・・ヒットマンだ！！（カチャ）」

リボーンは、未来に向けて銃を構えた。

ツナは、おどおどしてる。

ツナ「未来ちゃん、危ないから、下がってリボーンも、銃をしまえ！！」

そうすると・・・・リボーンが未来に、向けて撃った。

赤ちゃんに会う！！（後書き）

長いですが、読んでくれてありがとう！！

アルコバレーノ！！

ツナ「未来ちゃん！！危ない！！」

ツナにいわれたが・・・避けない。

獄寺、山本も、リボーンの行動が、突然だったのか、動けない。

未来は、弾を素手でとった。

この行動に、みんなビックリしている。

未来「危ないなぁ～、ツナちゃんと赤ちゃんの教育してる??」

未来は、未来が見えるので、このことは予測していた。

さらに、殺気を一割出しているだけなのに、みんな顔が、青い。

リボーン「未来・・・お前ファミリーに入らないか?」

リボーンが、未来に向かって言ってくる。

未来「何でですか?私ボンゴレはいりたくない。

確かに、ツナたちは、すごいよ。

”骸を倒すし、ヴァリアーに勝つし、１０年後に行って、百蘭倒すし、

シモンにも勝って”ホントに、すごいよ！！」

みんなは、ビックリしている・・・もちろんリボーンも。

今まであったことを、未来は、すべて知っている。

リボーン「未来・・・お前何者だ・・・答えろ！！」

リボーン発言に、みんなは、我に帰った。

獄寺「そうだよ！！リボーンさんの言うとうり、答えろ！！」

未来「私は、ただの一般人だよ！！ただちょっと知ってるだけ・・・。」

みんなは、（ぜったい一般人じゃねよ！！）と思っている。

当然、未来は、心を読める。

未来「これを見ればわかるかな？
　私は、アルコバレーノだ！！」

未来は、おしゃぶりを見せた。

チェーンは、つけてるけど・・・虹色だ。

この中で、一番リボーンが、ビックリしている。

未来「じゃあね♪みんなまたね！！」

未来は、屋上を去った。

アルコバレーノ！！（後書き）

この話は、まだ未来は、本心を出していません。
未来の本心は、これからです！！
アルコバレーノは、ロックに頼まれてなりました！！

何者??

未来が、屋上から去った後・・・

ツナ「嘘だろ・・・未来ちゃんが、アルコバレーノ!!」

ツナが、大声を出していった。

リボーン「うっせぇぞ。俺もビックリしたぜ。虹色のアルコバレーノなんて聞いたことないぞ。
あいつ何者なんだ・・・」

リボーンが、言うと、獄寺が急に、走り出した。

ツナ「えええ〜!!獄寺君急にどうしたの!?」

獄寺「10代目!!俺あいつの後、追ってきます!!何者か調べてみます!!」

獄寺は、そういって屋上から、去っていった。

山本「おもしろいなぁ〜いっちょっ俺も行くか、じゃあなツナ。」

山本も、獄寺のあとを、ついて行った。

ツナ（えええ!!なんでみんな行っちゃうの・・・）

リボーン「お前も、ボスなんだから愛原のこと、調べて来い（ゴン）」

リボーンは、ツナの頭を蹴った。

ツナ「わかったよ～行けばいんだろ、行けば！」

ツナも、獄寺たちの後を、追った。

リボーン「俺も、調べるか・・・」

リボーンは、誰もいない屋上で、笑ってた。

ナンパにあう！！

そのころ、未来は・・・

未来「おっ！！やっぱりみんな私のこと、調べるんだ！！楽しみ～♪」

未来は、歩きながら未来を見ていた。

未来は、家に帰っていると、

男子Ａ「これからどうするいい女いないしなぁ～」

男子Ｂ「確かにいないなぁ～おっ！！あの子可愛い子だ！！」

男子Ａ「ほんとだ！！ナンパしようぜ！！」

未来は、その人達を見ていた。

その人たちが、未来に寄ってくる。

男子Ａ「ねぇねぇ～君。可愛いねこれから暇？？」

未来は、おびえたフリをしながら。

未来「えっ・・・私・・・可愛いですか？・・・・・そんなの・・・困ります。」

未来は、泣きそうな顔をした。

男子達（（何この子めっちゃ可愛い！！））

男子Ｂ「可愛いよ！！泣かないでね。」

男子達は、おどおどしている。

未来「ありがとうございます・・・暇ですけど・・・」

未来は、だんだん笑顔に戻ってきた。

男子Ａ「ホント！！じゃあ俺らと遊ぼうよ！！」

男子が、うれしそうに言った。

未来「いいですけｄ・・・「君達何群れてるの。」・・・えっ！！」

未来は、声が聞こえたところを、向いた。

その声は・・・・雲雀　恭弥だった。

ナンパにあう！！（後書き）

やっと、雲雀登場ですよ・・・・・

ここまで、長い・・・

雲雀　恭弥に会う！！

男子達は、雲雀を見て脅えている。

雲雀「咬み殺す」

雲雀は、トンファーを、男子達を殴った。

男子達「くぉぉぉぉ！！！」

男子達が、吹っ飛んだ。

雲雀が、こっちを見て笑った。

雲雀「次は、君だよ。」

殺気を放っている。

未来も笑って。

未来「えっ・・・困ります・・・・私・・・・戦えないし・・・・」

未来は、フリをしているが、まったく雲雀は、気にしてない。

雲雀「いいから・・咬み殺されなよ。」

雲雀が、向かってくる。

未来は、ため息をついて。

未来「いや・・・怖・・・くない・・・」

未来の発言に、雲雀はビックリした。

未来は、雲雀の攻撃をすべてよけている。

そこに、ツナたちが来た。

ツナは、雲雀の攻撃をすべてよけているのを見て、びっくりしている。

ツナ「すごい・・・ぜんぶよけてる・・・」

未来は、ツナたちが来たので、一歩下がった。

未来は、小声で雲雀に向かって、

未来「ごめんね・・・もう終わりだよ・・」

と、いって未来は、逃げた。

ツナたち「あっ!!にげた!!」

雲雀「ちっ・・・逃げられた・・・眠いからから帰る。」

雲雀も、帰っていった。

ツナ（なんで俺達が、来たから逃げたんだ??）

ツナは、心の中で、疑問に残った。

未来の好きな人！！

未来は、もうダッシュでツナたちから逃げてきた。

未来「危なかった～絶対戦ってるところ見せれないし・・・リボーンに、目つけられたら、やばいし」

未来は、知らなかった・・もうりボーンに、目をつけられていることを。

ロック「おい、未来。」

突然声がした。

周りを見ているが・・・誰もいない。

ロック「当たり前だよ！！俺は、お前の中にいるから・・みえねえよ。」

未来「あぁ～そうか。で、何の用？」

突然、殺気を出した。

ロック「殺気出さないでください。お願いします。」

なぜかロックは、泣きそうな声で言った。

未来は、そこまで悪魔ではないと、思い・・・殺気を抑えた。

ロック「あの・・・未来様。何でそんなに、沢田たちと仲良くしないんだ。
せっかく、ＲＥＢＯＲＮ！の世界に来たのに？」
未来は、ちょっと困った顔で、
未来「ツナたちと仲良くしたいけど・・・私は、あいつらよりも、もっと別の人に、会いたいの！！」
ロック「誰だよいったい。お前が、そんなに会いたい人って？」
未来は、顔を赤くして
未来「それは・・その・・・えぇ！！言うの・・・・？」
ロックは、未来の顔を見て、顔を青くした。
ロック（かわいい・・だけど、こんなに人によって、態度変わるのかよ。）
未来「なんか言った！！」
未来は、突然殺気を出した。
ロック「いぇ・・なんでもありません。誰だよ！！」
未来「わかった言う・・・その、ヴァ、ヴァリアーなんだけど・・・・／／／／／」
ロック「ヴァ、ヴァリアーだと！！お前ヴァリアーが好きだったの

かよ！！」

未来「私ね、その・・・好きな人の前では、途切れ途切れに、なっちゃうの・・」

ロック「だから、沢田たちの時も、あぁなったのか！！なるほど！！」

ロックは、すべてわかった。

ツナたちと話す時、あんなにおどおどしていたのかが、わかった。

未来「これ秘密だからね！！絶対だよ！！」

っと、言って、家に帰った。

未来の好きな人！！（後書き）

作者「未来は、ヴァリアーが好きだったとねぇ～」

未来「べ、べつにいいでしょ！！ヴァリアーがすきでも！！／／／／」

作者「特に、誰が好きなんですか？」

未来「えっ・・・誰が・・好き？・・・・そんなのいえない！！」

作者「じゃあ、ヴァリアーの人に会わせます。」

未来「会ったら・・・死んじゃう・・・」

作者「皆さん！！未来は、誰がすきなんでしょうか？
会ってからのお楽しみ～！！」

宣戦布告！！

次の日の朝・・・

未来「やば～い！！遅れる！！」

未来は、朝から遅刻になりそうだった。

今、８：１０分

学校に着いた・・・８：１５分

未来「セーフ！！あれ？？誰もいない！！あぁ～今日学校休みだった！！」

未来は、てっきり学校があるかと思った。

未来は、歩いており、屋上へ向かった。

屋上について・・

未来「うぅ～気持ち～」

体を、伸ばしていると、

ツナ「未来！！何でここにいる！！」

えっ・・・と思い見てみたら、ツナたちがいた。

ツナは、ハイパーモードツナになっており、額には、死ぬ気の炎があった。

未来「何やってるの??みんなそろって。」

未来は、平然と聞いてきた。

リボーン（なんでこいつびっくりしないんだ）

未来は、心を覗いていたので笑っている。

リボーン「こいつらの、修行をしている。」

未来「へぇ～そうなんだ。」

未来は、興味なかった。

自分より弱いからだ。

リボーン「おい、愛原!!こいつらの相手になってほしい。」

みんなビックリしている。

未来はため息をついて

未来「いいよ♪でも、死んでも知らないよ。」

未来は、殺気を出しながら言った。

リボーン（こいつは、すげぇな。）

未来は、一歩前に出て、

未来「ここにいる、みんなで来ていいよ。私、勝てるから！！」

みんなは、その言葉に、青ざめている。

未来「なに？怖いの？あの”ボンゴレ１０代目ファミリー”が脅えてるなんて・・・アッハハハハ！！

獄寺「貴様！！バカにしやがって！！」

リボーン「うるせぇぞ！！始めるぞ。」

静かになった。

未来「じゃあこのコインが、床に着いたらスタートね♪」

未来は、コインを、弾いた。

宣戦布告！！（後書き）

これから、戦いですよ！！
未来は、戦いになると、我を忘れます。

戦い始まる！！

コインが、床についた。

先に、攻撃してきたのは、獄寺だった。

獄寺「形態変化（カンビオ・フォルマ）」

獄寺は、姿が変わった。

未来「へぇ～これがね・・・どんなの？」

獄寺「瓜ボム！！」

瓜が、こっちに来た。

未来は、避けようとしない。

未来は、くらった。

だが、傷一つもついてない。

未来「なんだ～これだけ・・・・つまんない」

獄寺立ちは、ビックリしている。

未来「ねぇ・・・終わりにしていいかな♪飽きたし・・・」

未来は、そういって・・・獄寺たちに、向かってくる。

獄寺は、未来の行動が、早くて見えなかった。

獄寺「なっ！！はえぇ！！」

未来は、獄寺の前に立ち、一瞬笑って、蹴った。

未来「一人終わり！！二人目いっきまーす！！」

そういって、次は、山本の前にいた。

山本（なんだこの速さ・・・）

山本は、反応できなかった。

山本も蹴りで、飛んでいった。

未来「二人終わり。三人目」

笹川の前に、立つ。

笹川も飛んでいった。

未来「みんな弱すぎ！！最後だね・・・ツナ！！」

今度は、ツナから行った。

もうそこには、未来はいなかった。

ツナ（どこだ？）

ツナは、探してる。

未来「後ろだよ。うしろ・・・」

未来は、ツナの後ろにいた。

未来「これで終わった。」

ツナも、飛ばされた。

リボーン「俺達の負けだ。お前強いな。」

未来「どうも！！じゃあね！！」

未来は、いなくなった。

戦い始まる！！（後書き）

すいません。あまりバトルシーンうまくできないんで・・・省略しました。

考える！！

未来は、家に帰っており、

未来「みんな弱すぎ・・・せっかく楽しみにしてたのに！！」

ため息をした。

未来の、目の前にロックがあれわれた。

未来は、急に殺気を出した。

ロック「殺気引っ込めろ。しょうがないだろ、未来がつよすぎ。」

未来「お前いつから、偉くなった！！」

ロック「ごめんなさい。そうだイタリアに行って、ヴァリアーにあってこいよ！！」

ロックは、いつも以上元気になった。

未来「えっなんで・・・・イタリア・・・ヴァ、ヴァリアー・・・に、会ってこいだと・・／／／／／／」

未来は、顔を赤くしていった。

ロック「別にいいじゃね。行こうぜ！！」

未来「えっ・・・でも学校は・・・」

ロック「病気ってことで。いこう！！」

未来「わかった。準備する。」

未来は、自分の部屋に行って、準備し始めた。

ロック（俺が、ぜんぶ手配してやる）

未来たちは、早速空港に行った。

考える！！（後書き）

次回、ヴァリアーです！！
未来が、好きな人がわかります！！

イタリア！！

未来は、今イタリア行きの飛行機に乗っている。

あれから数時間後、イタリアに着いた。

未来は、体を伸ばした。

未来「あぁ～やっと着いた！！飛行機の中最高～だよ！！」

未来は、飛行機の中で、曲を聴いていた。

もちろん好きなキャラクターのキャラソンだ！！

ロック（おい未来！！ヴァリアーの本部に着いたら、部下をのっとて、侵入しろ。）

未来は、心の中で頷いた。

未来は、ヴァリアーの本部に向かっていた、

未来（ここであってるの！？全部森じゃん！！）

未来は、後ろから、飛んできたものをとった。

見たら、ナイフだった。

未来は、確信した。

ここは、ヴァリアーだ。そしてナイフの主は・・・・ベルだ！！

ロック（何見つかってるんだよ！早くのっとれ）

未来は、走った。

ベルは、追いかけるのをやめた。

ベルは、通信機を出した。

ベル「ししっ隊長侵入者発見！！そっち向かった」

？「う〝お〝ぉい！！何やってるんだよ〝ちっ、しょうがね。」

ベルは、切った。

ベル「誰だよ・・・・あいつ・・・・」

ヴァリアーに会う！！

未来は、ヴァリアーの警備隊を見つけた。

未来（気絶させないと・・・めんどいな～あっ！！ロックやってこい！！）

未来は、ロックをパシリした。

ロックは、どんどん倒していく。

未来「これでいいよね！！のっとてる間は、楽だな！！」

未来は、一人の警備隊の中に入った。

未来「へぇ～こいつレヴィのぶかなんだ・・・かわいそ～」

未来は、のっとった相手の、情報がわかる。

未来は、庭に向かった。

庭に着いた。

未来は、自分になった。

未来「やっぱり！！自分の体が一番」

A「見つけたぞ！！侵入者だ！！」

未来は、笑顔で逃げた。

未来（こいつらうるさい！！）

未来は、近くにあったドアに、逃げた。

？「う〝お〝ぉい！！貴様が、侵入者か！！」

未来は、振り返ってみたらヴァリアーのみんないた。

未来「えっ・・・聞いてない・・・」

？「う〝お〝ぉい3枚におろしてやる！！」

うるさい！！！うるさい、うるさい、うるさい、うるさい、うるさい・・・

？「おい、てめぇ何者だ」

睨まれたよ・・・ぜんぜん怖くないけどね♪

未来「えっーーーと・・・一般人で～す！！」

うわぁ～みんなの視線が、痛い。

？「何バカなこと言ってんだ！！」

この人ひどくない・・・人をバカだって！！あとで、殺す。

？「ふん、かっ消す。」

ベル「ちょっボス！！まずいって。」

？「ムムム、やばいね。あいつ死んじゃうよ。」

みんな戸惑ってるね。おもしろい～

未来「貴方が、ボスですか？コワ～イ！！」

笑いながら言った。

未来は、急に顔を、無表情にした。さらに、殺気を出した。

ヴァリアーのみんなは、未来の行動にビックリしている。

？（何だこいつ。急に殺気を出しやがった。）

未来「私と、殺りますか？ヴァリアーの皆さん♪」

また、笑顔で言った。

？「いいぜ！かす鮫つれてこい」

未来は、殺気を抑えた。

ヴァリアーに会う！！（後書き）

未来は、最初は、恥ずかしかったけど・・・戦いモードのスイッチがはいりました！！

ヴァリアーと戦う！！

未来が、歩いていると、

？「お前、名前は！！」

未来「えっーと・・・ルビー・ルミネ・未来だよ！！」

スクアーロ「俺は、スクアーロだぁ！！」

未来は、無視した。

未来は、次に赤ちゃんを見た。

マーモン「ムムム、僕は、マーモン。」

未来は、笑った。

未来（今は、喋りたくないし）

スクアーロから、他の人の名前を聞いた。

未来は、ポケットから、携帯を出し、イヤホンをつけた。

スクアーロ「お前、曲聞くのか〝！！」

未来は、頷いた。

未来が、聴いてる曲とは・・・・ベルの「ｂｌｏｏｄｙ　ｐｒｉｎ

ｃｅ」だ

未来は、普段から、曲を聴いている。

ベル「着いた。ししっ、楽しみ～」

ＸＡＮＸＵＳ「来たか・・・・お前の相手は、カス鮫とレヴィだ・・・・」

未来「ねぇねぇ、ＸＡＮＸＵＳさぁ～、ホントに、こいつらでいいの？」

ＸＡＮＸＵＳ「あぁ・・・・」

未来は、笑った。

未来「すぐ終わるなぁ～。」

スクアーロ「すぐに終わるのは、てめぇだ！！」

スクアーロが、剣を振って、近づいてくる。

未来は、それをよけスクアーロの後ろに立ち、蹴った。

スクアーロは、飛んでいき、壁に合った。

レヴィは、最初に終わらせてある。

未来は、剣を向けた。

スクアーロ「俺の負けだ！！」

ＸＡＮＸＵＳ「おもしれ～気に入った。かす鮫こいつを、入れるぞ！！」

未来「ありがとうございます！！頑張りま～す。」

未来は、その部屋から、出て行った。

ネックレス・・・

今は、朝・・・・

未来「ふぁ～よく寝た！！今は・・・・１０：４５分」

未来は、時間を確認すると、着替えて部屋を出た。

ロビーに行ったが、誰もいない。

未来「あれ誰もいない・・・・なんでぇ？」

未来が、困っていると、

スクアーロ「お前今起きたのがぁ！！」

あさからうるせえなぁ～と思いながら、部屋をでた。

自分の部屋に着くと、首から掛けていたネックレスを見た。

そのネックレスを見ると、悲しくなる。

でも・・・これは見ないといけないもの。

忘れてはならないこと。

未来は、気づくと泣いていた。

未来は、誰か来たらいけないと思い、涙を拭いた。

そのネックレスを首に戻し、見えないようにした。

絶対に、見せられない。

必ずこの記憶は、忘れないよ・・・・

未来は、心の中で、誓っていた。

未来は、我に帰ると、誰かが見ていると、思った。

未来「誰！！そこにいるのは。」

ドアは、開いた。

ドアから見ていたのは・・・・

ネックレス・・・（後書き）

ちょっとシリアスになりました。
皆さんは、わかりましたか？
ネックレスのこと。
ネックレスに映っているものは、未来の秘密にかかわります。

そこにいたのは？

ドアのところにいたのは、マーモンだった。

未来は、ため息をついた。

未来「なんだマーモンかぁ、良かった。」

マーモン「未来、どうして泣いていたんだ？」

マーモンは、聞いてきた。

未来「えっ・・・マーモンは、そんなこと知らなくていいから・・・・」

未来は、悲しそうに言った。

マーモン「どうしても知られたくないんだね。」

未来は、頷いた。

未来「マーモン・・・このネックレスはね、大切な人から、もらったの。

でも、私は、その人に、酷いことをしてしまった・・・・」

未来は、ネックレスを握り締めながら、言った。

未来「ごめん・・・・こんなところ、他の人には、見せられないよ。

マーモンでよかった〜」

未来は、泣きやみ笑っている。

マーモン「未来、話がある。アルコバレーノについてだ。」

未来「いいよ。話してあげるけど・・・最低限ね。」

未来は、ネックレスをしまった。

未来「じゃあ、何から話そうか！！」

虹のアルコバレーノ使命！！

未来「これを見てわかるよね。ちょっと訳があって、鎖はとれないよ。」

未来は、鎖がついている、虹色のおしゃぶりを、マーモンに見せた。

未来は、マーモンが、おしゃぶりを見たのを確認して、話を進めた。

未来「このおしゃぶりは、リングにもなるの。」

未来は、おしゃぶりをリングに変えた。

マーモン「ムムム、これはすごいね。」

未来「そうでしょ！虹色の使命は、

（それぞれの守護者達を、見守ること。）だよ。」

未来は、低い声で言った。

マーモン「へぇ～そんなんだ。未来ならできるんじゃない。」

未来「ありがとう。これで話すことは、ないから。」

マーモン「わかったよ。じゃあね。」

未来は、マーモンに手を振った。

未来「本当は、もう一個使命あるんだけどね。（ニコッ）」

この声は、外に漏れることなく、消えた。

最後に残ったことは、笑っている未来の顔だった。

虹のアルコバレーノ使命！！（後書き）

実は、マーモンにいったことは、本当の使命じゃあないんです！！
（これも本当の使命だけど・・・）
未来の、本当の使命は、必ずわかります！！

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n4582y/

家庭教師ヒットマンＲＥＢＯＲＮ！　秘密の少女

2011年11月23日17時54分発行